

大道芸アジア月報 2022 年 9 月

vol. 33, no. 9

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

★大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

- 大阪・天保山海遊館広場 <https://www.kaiyukan.com/thv/marketplace/>
- 大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>
- 名古屋・大須ふれあい広場 ■名古屋 POP UP ARTIST <http://popup-artist.com/index.html>
- しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■江ノ島大道芸 <https://www.fujisawa-kanko.jp/feature/daidoge.html>
- ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidoge.jp/>
- お台場・デックス東京ビーチ ■みなとみらい東急スクエア ■テラスモール湘南 www.studioeggs.com
- 東京都へブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/
- 仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

※新型コロナウイルスの蔓延状況によって実演していない場所もあります。確認の上、お出かけください。

★浅草雑芸団の緊急公演

「国葬ぐだぐだ前夜祭」 9月26日（月）19:00開演 ○東中野・ポレポレ坐

演目（予定）：アベさんあいうえお歌、三味線漫談・嘘八百、覗きからくり・アダムとエバ、紙芝居・丹下左膳（宝壺の巻）ほか
¥1000+ワンドリンク

申込み・問合せ：zatugeidan@hotmail.co.jp 電話：090-6142-0106（カミジマ）

★今月の大道芸公演

△無声映画と紙芝居・蛙の会発表会 <https://www.matsudafilm.com/> ○王子駅前・北とぴあドームホール

●9月4日（金）13:00～18:00

公演協力費：¥1000

電話：03-3605-9981（無声映画鑑賞会・蛙の会）

△空転劇場 vol.33「道を拓く」 <http://www.kuutenkidou.com/> ○浅草・東洋館

●9月4日（日）19:30開演

加納真実、鳥居大幹、エクストリーム芹川、おとちゃん、しんたく、KK Staff

前売：一般¥3000 /学生¥2000（当日：一律¥3000）

チケット予約 <https://confetti-web.com/detail.php?tid=67736&>

△街頭紙芝居師・故永田為春さんをしのお <https://www.shinozaki-bunkaplaza.com/> ○江戸川区・しのぎ文化プラザ

●9月7日（水）～9月30日（金）

入場無料

電話：03-3676-9071（しのぎ文化プラザ）

△SAPPORO PERFORMANCE PARTY!2022 <https://sapporo-performance-party.jimdofree.com/> ○札幌駅前地下歩行広場

●9月10日（土）11日（日）11:00～18:00

バーバラ村田、双子パフォーマーPluto、YoYo Artist NAOTO、和風手品師-izuma-

△第2回大道芸オスピタパーティ in 宇都宮 <https://www.facebook.com/ospitaparty/> ○宇都宮市バンバ市民広場 ほか

●9月10日（土）11日（日）11:00～17:00

大道芸人ジーニー、健山、小さなサーカス団たらったらった（土曜のみ）、バルーンパフォーマーさくら、柳貴川起助、手品家宇都宮店、リッピー&まるぶー、くす田くす博、紙磨呂

△キネマアートしずおか <https://twitter.com/kinemart2022> ○静岡市街各所（札の辻クロスホール、七間町ミライエリアンほか）

主催：静岡×カンヌ×映画プロジェクト実行委員会

●9月16日（金）～25日（日）

■札の辻寄席○静岡フランス座

9月18日（日）14:45 HIROKI、道化師びり、わっしょいゆへた、ビッグボーイズ、イェンタウンフールズ、コウメ太夫、みま、ふじいあきら、めりこ、山作戦、春風亭朝之助

9月19日（月祝）14:30 HIROKI、ブッチャー、クラウントループ、キッサー、みま、ビッグボーイズ、わっしょいゆへた、プリンプリン、BOOMER、加納真実、めりこ

■七間町ヴォードヴィル○浮月楼本館・月光の間（葵区紺屋町11-1、JR静岡駅北口より徒歩3分）

9月20日（火）21日（水）両日とも19:00開演

出演：たきいみき、ちゅうさん、YEN TOWN FOOLS、めりこ、森田智博、野崎夏世、丸本すばじろう (toRmansion)、
江戸川じゅん兵、MUSICIAN (piano/イーガル、cello/こみてつ)

STAFF：演出/上ノ空はなび (toRmansion)、脚本・アートディレクション/江戸川じゅん兵

入場料：¥3000

■キャバレーはだかの王様〇札の辻クロスホール (葵区呉服町1丁目30 札の辻クロス6階)

9月23(金)24(土) for Child〜こどものためのキャバレーショー 10:30 ウェルカムパフォーマンス開始

出演：ともとも&みま、パーバラ村田、ちなつする (王子菜摘子&外山千尋 from ま・あ・る)、丸本すばじろう、
野崎夏世 (toRmansion)、江戸川じゅん兵、piano/菊池智恵子、cello/こみてつ

入場料：寄付一口1000円

9月23(金)24(土) for Adalt 18:00 開演

出演：チャタ、パーバラ村田、CIRCUS DE MOCCOS、ともとも (23日のみ)、みま、叶結、丸本すばじろう、野崎夏世 (toRmansion)、
江戸川じゅん兵、piano/菊池智恵子、cello/こみてつ

入場料：3000円

演出/上ノ空はなび (toRmansion)、脚本・アートディレクション/江戸川じゅん兵、音楽監督/イーガル、

△豊岡演劇祭 2022 フリンジ <https://toyooka-theaterfestival.jp/> 〇豊岡市内城崎、豊岡など

●9月17(土)〜19(月祝)

城崎：アストロノーツ、音姫金魚、九里ヶ崎雪彦、さくら組、鈴木仁、ゼロコ、タカパーチ、長岡岳大×めぐみ梨華、白昼夢、
ぱわあ、Fantome (ファントム)、渡辺あきら、渡邊翼 ケチャップリンたび彦 (18, 19日)、デパドロ・アノ (18, 19日)
江原・出石：豊来家幸輝、Yamato、八幡雄士、和風曲芸師 トルマリ、

●9月23(金祝)〜25(日)

豊岡：URARA×タカハシカナコ、オマールえび、カキツバターズ★、架空カンパニー あしもと、Co. SC0oPP、太平洋

△大道芸人大集合!よみうり大道芸 <https://www.yomiuriland.com/event/2022sw/?s=06#daidougei> 〇よみうりランド

●9月17(土)〜19(月祝)

9/17 Astersk NOVA、Entertainer Hi2、小林智裕、ジャグラーLaby、clownZEN、ミイラ☆ホップ、ジェンガ金次郎、
9/18 Astersk NOVA、Entertainer Hi2、SUKE3&SYU、チクリーノ、clownMASA、clown Hat、BIG Roots、
9/19 THE FIRE SHOW、Entertainer Hi2、小林智裕、clownMASA、パフォーマーYu-Ki、Beatway Worker

△マイム三味 in MIHAMA <https://yonbun.com/performance/17213.html> 〇四日市・三浜文化会館

●9月18(日)14:00

山本光洋、加納真実、シルブプレ

全席自由¥2200、高校生以下¥1100

△まつもと街なか大道芸&ジャズフェスティバル <https://www.go-mmd.jp/> 〇松本駅前、中央公園、松本城周辺 ほか

●9月23(金祝)

(大道芸) アジアゴールドプロレスリング、アスタリスクノヴァ、オジロス、加納真実、芸人まこと、サンキュー手塚、SUKE3&SYU、
チャラン・ポ・ランタン、中国雑技芸術団、ファニーボーイズ

(ミュージシャン) 伊是名千絵グループ、Cocochi-kit、高波奈津カルテット、竹内直&OLD&NEW DREAM JAZZORCHESTRA、HIBI★Chazz-K
ブラックエレファント、MIKE'S JAZZ QUARTET、ンジャエローズファミリー

△第47回野毛大道芸 <https://nogedaidoge.com/> 〇横浜にぎわい座ほか

■前夜祭〇横浜にぎわい座 B2 のげシャレー

●9月23(金祝)17:00〜18:30

目黒陽介一座「ジャグリングの現在」：目黒陽介、ジャグラーLaby、わっしょいゆへた、山村裕理、鈴木仁

入場無料：要整理券

■有料公演〇横浜にぎわい座 芸能ホール

●9月24(土)12:30 &16:30 /25(日)13:30

YEN TOWN FOOLS、AYACHYGAL、TSIRK ABBY、ゼロコ、谷口界、しよぎょーむじょーブラザーズ

おとな¥1000(当日¥1300)、中学生以下¥500(当日¥600)

■無料公演〇横浜にぎわい座 B2 のげシャレー

●9月24(土)11:00〜12:00 &15:00〜16:00 出演料：SAME SAME、めぐみ梨華、石黒ヨンペイ

●9月25(日)11:30〜13:30 &16:30〜17:30 出演料：SAME SAME、森田智博、AYUMI

入場無料：要予約

■屋外公演〇横浜成田山駐車場

●9月24(土)25(日)中国雑技芸術団、桔梗ブラザーズ、Perfomer SYO!

当日会場にて整理券発行

■フリー〇野の広場、1F エントランス、4F ホワイエ

●9月24(土)25(日)クラウンジュカ、ネコのアーサー、スタチュー/なにみてるの、アンティークドール リリー

△第25回ながの大道芸フェスティバル <https://www.facebook.com/naganodaidougei/> 〇長野市・表参道中央通り

●9月24(土)11:00〜17:00

ハードパンチャーしんのすけ、SEOPPI、バルーンパフォーマーAKI、un-pa、TOMI、サクノキ、フレディーノ、Entertainer Hi2、
健山、自動人形 R5

△隅田川水辺フェスティバル大道芸 <https://koto-sumida-daidougei.com/event/22sep/> 〇白鬚橋上流水辺テラス

●9月25(日) 11:00~18:00

△月潟大道芸フェスティバル2022 <https://tsukigata-daidoge.com/> ○新潟市南区月潟地区商店街

●9月25(日) 10:30

りずむらいす、風船王FOOZY、Street Entertainer RYU、スピニングマスターズ、Mr.アパッチ、新潟けん玉部 GATAKEN
マルアンAG、大道芸人たくまる、Idio2、アストロノーツ Mark2

△ダメじゃん小出の黒く塗り vol.47 <http://nigiwaiza.yaf.jp.org/> ○横浜にぎわい座 のげシャレー

●9月28(水) 18:30 開演

¥2100(当日¥2600)

申込み・問合せ: <http://nigiwaiza.yaf.jp.org/> 電話: 045-231-2515 (横浜にぎわい座)

△高知大道芸フェス2022 <https://kochi-daidougei.com/> ○高知市中心街

●10月1(土) 2(日)

荒木巴、idio2、伊藤祐介、加納真実、桔梗ブラザーズ、シルヴブレ、ゼロコ、ダメじゃん小出、張海輪中国雑技王、
to R mansion、バーバラ村田、performer SYO!、三雲いおり、Mr. bunbun

△第14回高円寺びっくり大道芸2022 <https://www.koenji-daidogei.com/2022/> ○高円寺駅周辺、商店街

●10月2(日)

△世田谷アートタウン2022 三茶 de 大道芸 <http://arttown.jp/> ○三軒茶屋駅周辺

●10月15(土) 16(日)

若林正の

食って極楽

四川の街中華・・・上野「晴々飯店」

私の劇団の公演も、コロナ感染にも見舞われず千秋楽まで駆け抜けることが出来た。あーひと安心。そして公演中に良い店に出会えたのも、これ又幸運だった。

上野駅から劇場までの道すがら、入谷口を出てすぐの街中華の店構えで、たまたま劇場入り前に腹ごしらえでもと入った「晴々飯店」。料理が来るまでテーブルのメニューを見てみると、本場の味付けで、他にはない四川の味わいなどがある。

店名にも目を惹かれたけど、店前のメニューに「本格四川料理」と書いてあり思わず入店。四人掛け席が五つほどの小さい店だけど、11時開店直後なのにほぼ満席！まわりを見ると半分以上の客が食べてるのは麻婆豆腐か？壁にも「当店人気 No.1! 麻婆豆腐定食 ¥800」と貼り出してあり、それにしてみる。料理が来るまでテーブルのメニューを見てみると、本場の味付けで、他にはない四川の味わいなどがある。さて出てきた麻婆豆腐、山椒の香りが凄い。さぞや辛いのかと口に運ぶと、辛いというより痺れる感じ。そこらの麻婆豆腐とは別物。美味い！ 食べ進む内に汗が吹き出てくる。飯が進む。



飯が足りないかと思ったら、お代わり自由だ！ ありがたや。付け合わせのサラダやスープも美味。デザートは杏仁豆腐がとても甘くて、麻婆豆腐の後口をリセットしてくれる。これで ¥800 は安い。他にも回鍋肉や酢豚、炒飯等も本場の味付けというからは是非試してみたい。

○全メニュー食いたい度=30 ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり
☆その 370

紙芝居と見世物のこのごろ

上島敏昭

○紙芝居師・永田為春さん死亡

最後の街頭紙芝居師と呼ばれた、永田為春さんが、本年4月24日に亡くなった。94歳だった。

永田さんは昭和29年から60年以上にわたって江戸川区で街頭紙芝居の実演をつづけていた。コロナ禍が激しくなった2020年5月、認知症が進みグループホームに入居していたという。

8月1日から25日まで、江戸川区の篠崎文化プラザで、永田さんをしのぶ展示が行われ、8月1日には最後のお弟子さんだったじゃんぼさんが「おいじさんありがとうの会」と題して紙芝居を実演



した。新聞をはじめさまざまなメディアで取り上げられ、好評のため、9月7日から30日まで、展示が延長され

ることになったとのこと。

永田さんは昭和3年、東京生まれ。生まれて半年で里子に出され、さらに10歳で豆腐屋に奉公に出るなど、苦労を重ねた子ども時代があり、暖かい家庭へのあこがれが強く、それが子どもたちを相手にする紙芝居という職業につながったようだ。長らく連れ添った妻のヨシさんは同区内の自宅で駄菓子屋さんも営んでもいた。駄菓子屋に紙芝居。ご夫妻はほんとうに子どもが大好きだったのだ。しかし子供がなかったため、里子を育てるボランティアも行って3人も育てあげたという。また、平和への願いも強く、毎年8月には原爆をテーマにした「平和への祈り」という紙芝居を実演していた。また、没後、永田さんの所蔵する丸木とし作画の原爆をテーマとした紙芝居が丸木美術館に贈呈された。

お弟子さんのじゃんぼさんは、数年前から永田さんの紙芝居活動を継承しており、いまでも毎週水曜日に、篠崎公園で実演をつづけている。昨年5月に実演中のじゃんぼさんを訪ねたことがある。



コロナ禍まただ中で、マスクの上に透明のフェイスシールドを装着して、実演していた。聞くと、コロナを気にする親御さんもいて、いままで毎回来ていたのに来なくなった人も、もちろん、ある。しかし逆にいままで来たことがなかった子どもたちも来るようになったりもした。「いままでと変わらないですよ」と仰っていた。隣にはおでんやさんが屋台を出していて、なんだかこのあたりだけは昭和30年みたいだった。じゃんぼさんは、おそらく東京では最後の街頭紙芝居屋さんだが、大阪では活動をつづける方たちが何人もいる。

塩崎おとぎ紙芝居館は、配給元「三邑会」として現役である。また博物館としては、毎月第4土曜日に、完全予約制で開館しているようだ。また「てづくり紙芝居館」も2020年にオープンしてコロナ禍にもかかわらず、たくましく活動をつづけている。

○見世物小屋

文春オンライン（8月28日配信）に見世物小屋の情報が載った。タイトルは【「今度やったら逮捕しますよ」愛護団体のクレームで名物「ヘビ女」を失った

見世物小屋の「驚きの秘策】。

大寅興行の話ではなく、大寅興行の傘下で実演している劇団「ゴキブリコンピナート」の主宰者である Dr.エクアドル氏とヤモリ女と称するホリー・ポッターさんのインタビュー記事である。

大寅興行に弟子入り(?)していた入方勇氏に乞われて、入方興行の手伝いとして関わったのがこの世界に入るきっかけだった。やがて直接、大寅さんより依頼があり、それ以来、大寅興行の傘下で、出演をつづけているという。

彼らが見世物小屋に出るようになってから、江戸時代から受け継がれてきた蛇やニワロリを食う「悪食」のネタができなくなったが、その事情について、こう語っている。

〈博多の祭りで準備していたときでした。動物愛護団体の女性が、小屋へおまわりさんを伴って押しかけてきたんです。その時ちょうど、動物愛護法の改正があつてですね、これまでは獣だけだったのが、新たに爬虫類や鳥類に関しても、殺傷に関する刑罰が重くなった。記憶だと、2013年頃です。法律をたてにされると、こちらとしては太刀打ちできない。正直お巡りさんは、見世物小屋の演目をやめさせることにそんな乗り気っぽくもなく、連れてこられたから仕方なく……という雰囲気を感じましたが。まあ、法律は法律なんでね。今度やったら逮捕しますよと、言質をとられてしまった。〉



このときはニワトリの首を食いちぎる芸だったが、急遽、演目を変更し

て、生きている虫を食べることにした。「殺虫剤で蚊を殺してはいけない」とかはできないでしょうし)

結局、これ以降、虫を食べるといふ芸に変更した。まもなくニワトリばかりでなくヘビも同様となった。さらに、大蛇はもちろん、あらゆる動物の、夜間展示(夜8時以降)も禁止となって、基本的に夜間の公演を常とする見世物小屋では動物を出演させることができなくなってしまった。サーカスでも動物芸が見られなくなっているが、これも同じ状況だ。

現在、彼らがやっている芸は、虫喰いのほかに、頬に金属を串刺しにする芸。安田里美さんは、腕に五寸釘を通して、紐を掛けて水の入ったバケツを振り回す芸を「刺繍術」と称していた。これは頬に串を刺す「刺繍術」ということになるだろう。ほかに昔ながらの、鼻通し。チェーンを鼻から入れて咽喉から出す芸である。おなじく昔ながらの火吹きなどがある。いわゆる「体を張った芸」だが、彼らは「なんでもありなのが(見世物の)伝統」だろうと述べている。

○見世物学会

もう一つ、見世物に関する話題。

二年ぶりに「見世物学会」が行われることになった。概要は次のとおり。期日：11月27日(日)13時～15時 会場：東京藝術大学・取手校舎 講演：和田修(早稲田大学準教授) 演題：風流・飾り物・仮装 *学会終了後に懇親会を予定。

詳細は、私は知らされていないが、講演の切り口は、長崎県波佐見町野々川の「虎浮立」とのこと。坂入尚文氏によれば、和田修氏が坂入さんに送った年賀状の画像が、この民俗芸能の写真で、笛太鼓を背景に作り物の虎が映っている。それについて坂入さんは、「おそらくは本物の虎を見ることの無かった時代、人びとの手作りであろうことは、異様に大きな顔、あり得ない短足に、悲しいほど短い尾にも見て取れる。そのような事はむしろ異界への親近感であるように感じられる」と書いている。

当日は、美術家の小沢剛氏も加わってシンポジウムもおこなわれる模様。

ポストコロナにむけて、大道芸・見世物の世界も、徐々に活動を再開し始めている。